OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	Serum Gastrin, Pepsinogens, and Parietal Cell and Helicobacter pylori Antibodies in Patients with Gastric Polyps
Author(s)	Juan, Jose Bonilla
Citation	
Issue Date	
Text Version	none
URL	http://hdl.handle.net/11094/38929
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

氏名	Juan José Bonilla（ファン ホセ ボニジャ）
博士の専攻分野の名称	博士（医学）
学位記番号	第 11289 号
学位授与年月日	平成6年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学研究科内科系専攻
学位論文名	**Serum Gastrin, Pepsinogens, and Parietal Cell and *Helicobacter pylori* Antibodies in Patients with Gastric Polyps** **（胃ポリープの背景因子に関する研究 —血清ガストリン，ペプシノーゲン，抗壁細胞抗体および抗ヘリコバクター・ピロリ抗体の検討 —）**
論文審査委員	（主査） 教授 松沢 佑次 （副査） 教授 鎌田 武信　教授 網野 信行

論文内容の要旨

【目的】

胃ポリープは内視鏡受診者の中では比較的頻度の高い疾患であり，組織学的には異なるいくつかのサブタイプに分類され，頻度の高いものとして腺窩上皮性過形成性ポリープ（Foveolar Hyperplastic Polyp, FHP）と胃底腺ポリープ（Fundic Gland Polyp, FGP）がある。FHPは腺窩上皮の過形成を特徴とし，胃炎患者に多いとの報告が見られるのに対し，FGPは正常胃底腺の過形成と小嚢胞を特徴とし，正常異粘膜を発生母地とするとの報告が散見される。

最近，胃粘膜病変の発症にヘリコバクター・ピロリ（Hp）感染が関与する可能性が報告されているが，このHpと胃ポリープとの関係については未だ十分な検討がなされていない。そこで，本研究はFHP患者およびFGP患者におけるHp感染率および血清抗壁細胞抗体（Parietal Cell Antibody, PCA）陽性率を検討すると共に，背景胃粘膜の評価を血清学的に行なうことを目的とした。

【対象と方法】

胃内視鏡検査にてポリープを認め，生検材料により病理組織学的に診断されたFHP患者37名，FGP患者36名を対象とした。また，上部消化管造影検査にて胃粘膜に異常を認めない健常ボランティア27名をコントロールとした。さらに，Hp陽性胃ポリープ患者の対照として，胃ポリープのないHp陽性萎縮性胃炎患者36名を用いた。胃粘膜萎縮の指標として血清ガストリンと血清ペプシノーゲンⅠを，また胃粘膜炎症の指標として血清ペプシノーゲンⅡをいずれもラジオイムノアッセイ法で測定した。血清PCAおよび血清抗Hp抗体の検出はそれぞれ蛍光抗体法，ELISA法により行なった。また組織中のHpの存在診断をRapid Urease TestまたはGiemsa染色で行なった。

【成績】

1）胃ポリープ患者における血清ガストリン，血清ペプシノーゲンⅠおよび血清ペプシノーゲンⅡ値

血清ガストリン値および血清ペプシノーゲンⅡ値は共に，健常コントロール（ガストリン，68.3±3.9pg／ml;ペプシノーゲンⅡ，7.02±0.72ng／ml）に比べ，FHP患者では有意に高く（ガストリン，652.3±124.2pg／ml;ペプシノーゲンⅡ，19.65±1.60mg／ml），FGP患者では有意差を認めなかった（ガストリン，60.1±4.0pg／ml;ペプシノーゲンⅡ，6.17±0.55ng／ml）。

一方，血清ペプシノーゲンⅠ値は，健常コントロール（43.9±2.3ng／ml）に比べ，FHP患者では有意に低く（26.8

±3.4ng／ml)，FGP 患者では有意差を認めなかった。(39.0±1.6ng／ml)。従って，FHP は胃底腺の萎縮を伴った炎症胃粘膜を，FGP は正常胃粘膜を，それぞれ背景にしていることが示された。

2) 胃ポリープ患者の Hp 感染率と PCA 陽性率

FHP 患者の Hp 感染率は83.8%と健常コントロール（40.7%）に比べて有意に高く，逆に FGP 患者は19.4%と低い傾向にあった。ポリープ自身の Hp 感染率は FHP で90.5%，FGP で10.0%であり，またポリープの周囲粘膜の Hp 感染率はそれぞれ73.7%，11.1%であり，いずれも FHP 患者では Hp 感染が高率であった。

一方，PCA 陽性率は，FHP 群では24.3%と，FGP 群（2.9%）やコントロール群（3.9%）に比べて有意に高かった。しかし，自己免疫性胃炎（PCA陽性）を伴う FHP 患者の Hp 感染率も77.7%と高率であり，FHP 患者では PCA の有無を問わず Hp 感染が高率であることが示された。

3) Hp 陽性 FHP 患者の背景因子の血清学的検討

Hp陽性の FHP 群は，FHP のない Hp 陽性萎縮性胃炎群に比べ，血清ペプシノーゲンⅠ，Ⅱ値には有意差を認めなかったが，血清ガストリン値は有意に高値であった（615.7±131.3pg／ml vs. 337.1±51.2pg／ml)。

【総括】

1) 胃底腺ポリープ患者では血清ガストリン値および血清ペプシノーゲンⅠ，Ⅱ値はともに正常であったが，腺窩上皮性過形成性ポリープ患者では血清ガストリン値と血清ペプシノーゲンⅡ値は上昇し，血清ペプシノーゲンⅠ値は低下していた。

2) Hp 感染は胃底腺ポリープ患者ではほとんど見られないのに対し，腺窩上皮性過形成性ポリープ患者では高率に見られた。

3) 自己免疫性胃炎を伴う腺窩上皮性過形成性ポリープ患者でも Hp 感染が高率であった。

4) Hp 陽性の腺窩上皮性過形成性ポリープ患者の血清ガストリンは，ポリープのない Hp 陽性萎縮性胃炎患者の血清ガストリンより有意に高値であった。

5) 以上より，胃底腺ポリープは Hp 感染と炎症のない胃粘膜に発生し，一方，腺窩上皮性過形成性ポリープは胃底腺萎縮を伴った Hp 感染のある炎症胃粘膜に発生することが示された。また，細胞増殖促進作用を有するガストリンが腺窩上皮性過形成性ポリープの形成に関与することが示唆された。

論文審査の結果の要旨

近年，ヘリコバクター・ピロリ感染が胃粘膜病変の発症に関与する可能性が報告されている。しかし，比較的頻度の高い疾患である胃ポリープとヘリコバクター・ピロリ感染との関係についての検討は十分なされていない。本研究は，胃ポリープ患者の背景因子を解析することにより，腺窩上皮性過形成性ポリープはヘリコバクター・ピロリ感染と強く関連し胃底腺萎縮とそれによる高ガストリン血症がそのポリープの発生に重要であることを明らかにし，一方胃底腺ポリープはヘリコバクター・ピロリ感染と関連しないことを示したものである。この結果は胃ポリープの成因の解明のために資するところ大であり学位に値するものと考えられる。